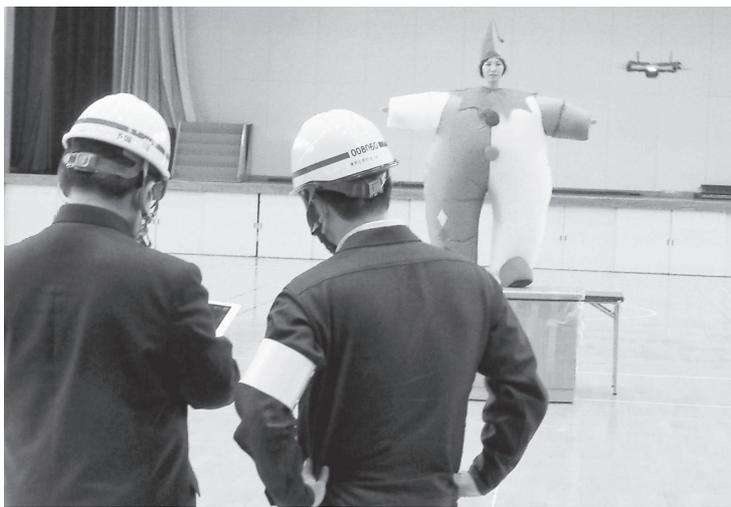


# ドローン操作 生徒挑戦



ドローンを使い、ピエロに扮(ふん)した教諭(奥)を様々な角度から「3Dスキャン」した特別授業=市川市

通信ケーブルの点検作業などでドローンを活用しているNTT東日本千葉西支店の社員が県立市川工業高校(市川市)を訪れ、同校電気科2年の約40人に特別授業を行った。学校でのICT(情報通信技術)教育の一環で、生徒らは同社員の指導を受けながら高性能のドローンを実体験した。

## 市川工業高でNTT東特別授業

特別授業は講義と実技で行われ、教室で支店社員がドローンの定義や同社との関わりを説明。その後には体育館でドローンを飛ばす「体験授業」を実施した。生徒らは米国製の小型ドローンの操作方法を教わり、コントローラーを手に挑戦。「追跡撮影」では、走り回る生徒らの後を人間に追いかけさせた。「自動

飛行」では障害物を避けて紙で作った輪を通り抜ける高性能のドローンの能力を目の前で体験。「3Dスキャン」は、ポーズを取る同校教員の周りを飛んで立体画像を制作する性能に感嘆した。

講師を務めた同社員は「ドローンやAIの技術が身につけば、社会に貢献してあげたい」と生徒にメッセージを送った。指導を受けた佐藤晴尚さん(16)と榎本成哲さん(17)は「空中でピタリと静止したり、なめら

かに飛行したりする性能はすごいと思った」と声をそろえた。NTT東日本でドローンは、橋の下を通る通信ケーブルの点検や、災害で切れたケーブルの復旧作業などに活用されている。

『千葉日報』2023年5月30日付4面